

# 自閉的傾向を示す言語発達遅滞児の 対人関係改善と言語習得の過程

足利市立山辺小学校

教諭 車 塚 已 喜 雄

## I 要 約

自閉的な傾向が強く、意味のあることばを全く話さなかった子ども（初回面接当時2才4カ月）をことばの教室で2年6カ月間にわたって指導してきた。その間、描画・対人関係などの面で伸びが見られるようになった後、言語表出をするようになり、最近では自分から「パパ」「ママ」と呼びかけるようになった。

指導記録をふり返りながら、自閉的な傾向を示す子ども、H・T児の対人関係改善と言語習得の過程について考察してみた。

## II 事 例

H・T 男 昭和48年3月1日生

初回面接日 昭和50年7月1日 当時2才4カ月

### 1. 初回面接時の様子

ことばについて : イャー、アー などの叫び声だけ。

あそびについて : 部屋の中をかけ回る。

すべり台ではらばいになってすべる。

文字つみ木を、ていねいに1列にならべる。

マジックインキで、なぐり書きをする。

対 人 関 係 : 指導者や母親を無視したひとり遊びでほとんどの時間を過ごす。

だっこ などの身体接触をいやがる。

周囲の呼びかけや音に無関心。

そ の 他 : 足どりなどはしっかりしていて、運動能力の面では遅れはみられない。

“おむつ”がまだ取れていない。

### 2. 諸検査の結果

初回面接時の様子から、難聴の疑いもあるので、国立聴力言語障害センターを紹介し、詳しい検査を依頼した。以下は、その報告書からの抜粋である。

聴 力 検 査 : 聴力に異常はみられない

ゲゼル発達検査 : 運動発達指数 107

適応発達指数 101

言語発達指数 34

個人・社会発達指数 101

(所見) 言語発達の遅滞が著しいが、高度の聴力障害がみられず、精神薄弱とも思われないので、情緒の発達、対人関係の発達、落ちつきのなさ等について指導していくと良いと思う。

(昭和50年7月23日 国立聴力言語障害センター)

### Ⅲ 指導経過

初回面接時の様子、諸検査の結果から、T児とその母親に対し、三つの指導方針をたてた。

ア、だっこ、おんぶ、くすぐりっこ、など身体接触の多い遊びをしながら、対人関係のもち方の改善をはかる。

イ、T児の好む遊びを通して、ことばをたくさん投げかけてやり、ことばの発達を促す。

ウ、家庭でのT児に対する正しい育て方について、母親に助言する。

以上の方針のもとに、昭和50年10月2日～昭和53年2月2日まで、43回の指導を行ない、現在も継続中である。その間の経過を、T児の様子の変化などに対応して、四期にわけてまとめてみた。なお、だっこやおんぶなどの活動の重要性については、参考文献1を参照されたい。

#### 1. 第1期(第1回～第7回) 昭和50年10月2日～昭和51年3月4日

T児の自由選択による遊びにつきあい、そばで補助したり名前を呼びかけたりする。そして、おりをみて、だっこやくすぐりっこなどに誘い込むことが、指導者の主なはたらきかけである。ひと言もことばを発しないのに、文字つま木が好きで、箱から出して並べたり、きちんと入れたりする遊びが多く、その他の遊びは、すぐあきてしまい落ちつきがなかった。 一表1一

表1. 第1期の指導経過

年月日	主な活動	特に目立った (+) 対人関係の良い面 行動 (-) 対人関係の悪い面	母親との話し合い 家での様子 など
50年 10. 2	無目的な動き だっこ・おんぶ など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンブカー、ひこうきでひとり遊び(-)</li> <li>・文字つま木をならべる(-)</li> <li>・くすぐりっこ を喜ぶ(+)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「母親への手紙」※ を使って家での遊び方 などについて話し合う。</li> </ul>
10.30		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道の水を、コップや洗面器にくんだりこぼしたりして遊ぶ。水道から離そうとすると怒る。(-)</li> <li>・はさみで紙をきろうとしたり、マジックでめっちゃめっちゃ描きをする。</li> <li>・イナイナイバーのとき、指導者の顔を見て笑う。(+) )</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話の受話器を耳につけたり、ひこうきを高くかざしたりするが、声は出さな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○T児が甘えてきたときの扱い方、体に触れ</li> </ul>

11. 6	無 目 的 な 動 き	だ っ こ ・ お ん ぶ ・ 高 い 高 い ・ く す ぐ り っ こ な ど	つ み 木	本	い。(一) ・絵本を一行に並べる。(一) そのとき指 導者が「チョウダイ」と手を出したら、 本を渡した。(十)	る遊びの大切さ、など について話し合う。	
12. 4			す べ り 台	絵 カ ー ド	・絵カードをならべたり、集めたり、を 何度もくり返す。(一) 「チョウダイ」と いうと、くれるときもある。(十)ときどき 読んでいるような発声をする。 ・バイバイのしぐさをする。(十)		
12.19			文 字 つ み	シ ャ ボ ン 玉	・文字つみ木をならべる。(一) ・叫び声の種類が多くなる。 ・「Tちゃん」の呼びかけに、1度だけ ふり返る。(十)		
51年 116			み 木	わ な げ	・ひとり遊びが多い。(一) ・くすぐりっこを喜ぶ。(十)		
3. 4					・文字つみ木を、ケースの中にきちんと 並べ、表にしたり裏にしたりをくり返す。 帰るとき、つみ木をつまおうとすると、 怒って泣く。(一)		

※ 参考文献 1. の1部を抜粋して作った母親指導の手引き

## 2. 第 2 期 (第8回~第22回) 昭和51年4月13日~昭和51年12月23日

身体接触を喜ぶようになり、視線も合うようになったので、T児が熱中しそうな文字つみ木などを意図的に与えないで、興味を別の物へ移そうとした。すると絵を好んで描くようになり、描画を媒介として模倣などをするようになり、ことばの指示にもいくつか従えるようになった。しかし、まだ話しことばは全くない。 —表2—

表 2. 第 2 期の指導経過

年 月 日	主 な 活 動	特 に 目 立 っ た 行 動 <sup>※1</sup>	母 親 と の 話 し あ い 家 で の 様 子 な ど
51年 4.13	だ っ こ	・電動オルガンで遊んでいるとき、指導者がスイッチを切って音を消すと、自分でスイッチを入れる。(聴力が正常であることに確信を持った)	

	おんぶ	大型 積み木	ぶらんこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で、指導者と視線があうことが多くなる。</li> <li>・帰るとき「バイバイは？」と言うと、手を振って指導者のほうを見る。</li> </ul>	
422			すべり台	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型積み木を高く積んで、指導者の手を持って拍手させる。</li> <li>・直線を模倣して描く。</li> <li>・うしろから「Tちゃん」とよぶと振り返る。</li> </ul>	
5.13	イナイナイパー など	描 画		<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲線と、直線を区別して模倣するようになる。</li> </ul>	
6.3 6.10 6.18			オルガン・ブランコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレヨンに指導者にわたすふりをするだけなので「だましたな」と言うとき、顔を見て笑い、何回もくり返す。</li> <li>・指導者がだっこして母親と追いかけてこをする。非常に喜ぶ。</li> <li>・指導者が人の顔を描くと興味を示し、耳や鼻を指して描くようにせがむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家では「目はどこ」「耳はどこ」などがわかり、バンザイ、バイバイなどいくつかの芸ができるようになる。</li> </ul>
7.1 7.8			ひらがなカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の子どもへの指導用のひらがなカードを見つけ、それをならべたり集めたりする。そのとき、文字は決してさかさまにならべたりはしない。(一)</li> <li>・指導者に文字をよむように、身ぶりで要求し、読まないで、手を口の中に入れて、口をあけさせ、読むまでやめない。</li> <li>・ほとんどカードならべだったが、何回か「だっこ」の呼びかけに応じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ことばの遅れた子の育て方」※2を使って、いわゆる“自閉傾向”があるということ、発達のアンバランス、対人関係の悪さ、などから理解してもらおうと同時に、良い面もあらわれてきていることなどを話す。</li> </ul>
7.15	描 画	しゃぼん玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(文字カードはかくした)</li> <li>・はじめて、自分で顔の絵を描く。</li> </ul>		
9.16			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の描く電車を模倣して、長方形を描く。</li> <li>・バイバイ、ドウモ、などをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家では絵本を見るようになり、絵を指して母親に名前を言わせる。</li> </ul>	
10.7 10.28	だっこなど	積み木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こんにちわ」「ナイナイしよう」などの指示がわかる。</li> <li>・イナイナイパーで指導者がカーテン</li> </ul>		

1118		つみ木	のかけにかくれると、さがしに来る。 ・指導者のまねをして、三階だての家をつくる。できたら手をたたいて喜ぶ。	○母親の感じでは、ふざけてつねったとき「イテイテ」と言う。
12. 2 1223	描 画	ハムレット ※3	・この2回は、ハムレット(ゲーム)に興味をもち、操作がわからなくて、大騒ぎする。(→) ・人を描いているとき、うしろから「お耳」、「次は口」など指示すると、その部分を描く。順序を変えて指示しても、その通りに描ける。	○この頃よく他人にだっこしてもらいたがるようになる。

- ※1. 「特に目立った行動」については、対人関係の良い方向にむかっていると思われる行動を中心にまとめた。とくに(→)として書いたのは、自閉傾向特有な行動と思われるものである。
- ※2. 「全国心身障害児福祉財団」で発行している、両親指導の手引き。(参考文献2)
- ※3. 「ごもくならべ」に似たゲーム。

### 3. 第3期(第23回～第30回) 昭和52年2月3日～昭和52年7月7日

1カ月半ほどの中断の後、数、とくにカレンダーに異常な興味を示すようになり、それがないと、大騒ぎするようになった。その他にも天気図とか、新聞のテレビ版など、指導者側からみると、好ましくないものに興味を持ちはじめた。唯一の良い面としては、指導者が自作した、人の体の絵の上に目や、口など、体の部分を置く遊びをやり、名称をポインティングするようになったことである。

なお、昭和52年4月から指導場所が、助戸小から山辺小へ移った。 一表3一

表3 第3期の指導経過

年月日	主な活動	特に目立った行動	母親との話し合い 家での様子 など
52年 2. 3	カ レ ン ダ ー	・1から30までの数字を言われて指すことができる。(ポインティング) ・教室にあるカレンダーに興味を示し、一人でながめて笑ったり、叫び声をあげている。(→)	○天気図にも興味を持ち家では、地図上の地名をポインティングできるようになる。
426	体 の 部 分	・カレンダー遊び 図のようなカレンダーのわくに、1から30までの数カードをおいて、カレンダーを完成する遊び。T児のやり方は、1日、2日…と順にカードを捜しておい	

519	カ レ ン ダ ー			ていくのではなく、手あたりしだいでつかんだカードを並べていく。たとえば																																								
6. 2				<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>「1」を水曜日の1段目においたあと、「24」をサッと金曜日の4段目におく。という具合である。そして、最終的には1つもまちがえずにカレンダーを完成させるのである。(+)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の部分をおく遊び</li> </ul> <p>裸の子どもの体の絵の上に、福笑いのように(ただし目かくしをしないで)目耳、鼻、口、手、足、洋服、ズボン、をおいて、絵を完成させる遊び。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この二つの遊び道具が、指導者のロッカーの中にあることを覚えてしまい、自分で取ってきたり、カギをかけておくとその前で大騒ぎして、結局手に入れてしまい、数回の指導は、ほとんどこの遊びだけで過ごした。(+)</li> </ul>	日	月	火	水	木	金	土																																	
日	月	火	水	木	金	土																																						
617		体 の 部 分 を 置 く 遊 び	絵 本																																									
623			描 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目、鼻、口、など、指示によって、正しい位置に置けるようになる。(+)</li> <li>・カレンダーがなくても大騒ぎしなかった。(+)</li> </ul>																																								
630	カ レ ン ダ ー		新 聞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ番組が載っている新聞を持ってきて、ひとりでながめている。(+) <ul style="list-style-type: none"> <li>○家では、プロ野球、ピンポンパン、ロンパールームなどを番組表からみつけて指す。</li> </ul> </li> </ul>																																								
7. 7		体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダーへの強い興味がやや減ってきた。置き方をまちがったりする。(+)</li> </ul>																																								

#### 4. 第 4 期 (第 31 回～第 43 回) 昭和 52 年 7 月 14 日～昭和 53 年 2 月 2 日

カレンダーへの興味がうすれ、文学に興味を持つようになった。文字のマッチング(同じ文字を合わせる)や、ポインティングの遊びをしているうちに、いくつかのひらがなを声を出して読んだ。これが、指導中に確認できた最初の有意味の発語であった。それをきっかけに言語表出をするようになり、指示に対する反応も徐々に伸びをみせてきた。また、遊びについても指導者が意図的に用

意したマッチング遊びなどもできるようになった。 一表4一

表4. 第4期の指導経過

年月日	主な活動	特に目立った行動※ことば	母親との話しあい 家での様子 など
52年 7.14	文字遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50音の表に、同じ表のひらがなを切り抜いたカードを置く(マッチング)。「さ」と「き」「め」と「ぬ」をまちがえたが、あとは全部できる。</li> <li>・指導者が「あ、はどれ?」と聞くと「あ」のカードを指す。(ポインティング)同じように「い」「え」「お」のポインティングができる。</li> </ul>	母親との話しあい 家での様子 など
8.17		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「い」「ん」「お」「あ」「え」「や」「よ」「め」「て」を声を出して読む。(ネーミング)</li> <li>・「て」を読んだとき、自分の“手”を見る。</li> </ul>	○近所の子と、追いかけてっこをするようになった。
9. 8	描	<p>指導者「パパをかいて」 T児 緑のチョークで描く。 指導者「ママをかいて」 T児 ピンクのチョークで描く。 指導者「(緑の絵を指して)これだーれ」 T児 「パパ」 指導者「(ピンクの絵を指して)これだーれ」 T児 「ママ」</p>	○家で言ったことば ママ, パパ, おはよう, アンチャン, オジチャン, シロ(犬), 1から10までの数詞, いたい, おいしい, マンマ, ヨーイドン
9.29	画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描画や、遊びの中で確認できたことば(模倣)できた、でた、あか、あお、おはようめ、て、あし</li> <li>(自発)め、て、パパ、ママ、みみ、あし</li> <li>・オーム返しのようなことばが多いが、自発語も増えている。</li> </ul>	○排泄が完全に自立する。
10.13	文字あそび 電話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話の受話器を取って耳にあて、指導者が呼びかける声を聞いている。しかし自分からは話さない。</li> <li>・「いち、に、さん」と言いながら数字を書く。(1, 2, 3, 5, 6, 10 は書ける。)</li> </ul>	○家で言ったことば オータ(太田)おかあさん, チミ(犬)マン(犬)お手, ざんねん, じどうしゃ, オレンジ(ジュース), 八時

10.27	くだもの・やさしい模型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待合室で、指導者が「こんにちわ」と言うと「こんにちわ」と返事をする。</li> <li>・くだもの、やさしい、の模型を、絵カードとマッチングさせる。指導者が名前を言うと、いくつか模倣して言う。</li> </ul> <p>模倣したもの 「モモ」「スイカ」「レモン」「タケノコ」</p>		
11.10	文字つみ木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字つみ木をみつけてしまい、数字の書いてある文字つみ木を並べたりくずしたりで夢中になってしまう。(一)</li> </ul>		
11.24	くだもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵をみせながら「〇〇を取ってちょうだい」「〇〇をママにやってちょうだい」という指示に従がえるようになる。</li> </ul>		
12. 1 12.15	やさしい	体の部分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご、みかん、なす、きゅうり、もも、バナナ、ぶどう、は絵をみせなくても取れるようになる。</li> </ul>	
53年 1.12	文字あそび	描画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「でんしゃ」と言って電車を描く。</li> <li>・「これパパ」「これママ」と言いながら、線を1本1本描く。</li> <li>・その他の自発語 「せいかい」「ざんねんしよう」「おえかき」「あお」「いち、に、さん」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家で気が向くと、パパ、ママ などと呼ぶ。</li> </ul>
1.19	文字あそび	描画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が「電車かいてちょうだい」と言うとその通り描く。</li> <li>・ひらがな2文字の単語同士のマッチングができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族がテレビのチャンネルを言って回すように頼むと、その通りにできる。</li> </ul>
2. 2	くだもの	電話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くだもの遊びでの自発語 「もも」「リンゴ」「バナナ」「みかん」「レモン」「すいか」「ぶどう」</li> <li>・電話では、受話器を取って T児 「モ、モシ(モシモシ)」 指導者 「Tちゃんですか」 T児 「ハーイ」 指導者 「バイバイしようか」 T児 「バイバイ」</li> </ul>	

※ 対人関係の良い方向にむかっていると思われる行動を中心にまとめた。

## Ⅳ 考 察

### 1. 本児の自閉的傾向について

T児の指導中、人との関係がうまく持てない行動や、自閉的傾向の子どもに特有な行動（参考文献3参照）を観察することができた。それらをあげてみると、

- 難聴を疑がわせるほどの、周囲の音や呼びかけに対する無関心さ。
- 何の目的もなく、部屋の中を動き回ること。
- だっこ、おんぶ、などの身体接触をいやがること。
- 積木、おもちゃ、などをていねいに並べること。
- 熱中していることを、じゃましたり中断させたりすると、大騒ぎすること。
- ことば、を使わないこと。
- 他の能力の発達に不相応な、数・カレンダー・文字への異常な興味と能力。

これらの問題行動は、ある程度改善され、全くみられなくなったものもあるが、ことばの遅れ、数への異常な興味、など、まだ残っている問題も多い。

### 2. 言語の習得について

これも自閉的傾向のある子どもの特徴かもしれないが、普通児の言語発達と違っていわゆる喃語期がなく、指導中確認できた最初のことばは、ひらがなを読んだ「い」という音であった。

しかし、最近ではことばによる簡単なやりとりも少しずつできるようになってきた。（昭和52年9月8日、昭和53年2月2日の記録参照）

### 3. 対人関係の改善について

徐々にはあるが伸びをみせている言語や、対人関係の改善に影響を与えた要因は、何だったのであろうか。「T児自身の“自閉的傾向”が強くなかった。」と言ってしまえばそれまでであるが、ここでは早期指導の効果（初回面接時、T児は2才4カ月であった）という点について、少し述べてみたいと思う。

まず第1に、T児の問題行動が固定化していなかったことである。T児は初回面接時、すでに対人関係に問題があるいくつかの行動がみられたが、後に出てくるカレンダーのような、1つの物への異常な執着はまだなかった。これは、T児と関係をつけていく上でいろいろな遊びや身体接触を試みることができた、という点でプラスであったと思っている。

第2に、T児の問題行動は、適切な指導（あるいは育て方）を続けていないと、悪化していったのではないかと、と思われることである。T児は第2期で改善のきざしが見えていたが、冬休みをはさんだ1カ月半のブランクの後、カレンダーに異常な興味を持つようになった。T児を早期から指導していなかったら、あるいはブランクがもっと長かったら、カレンダーへの執着はもっと強いものになっていたのではないだろうか。

第3に、技術的な面での指導のしやすさである。対人関係改善の面で最初のきっかけとなった、だっこ、くすぐりっこなどの活動を続けられたのは、T児の体重の軽さが幸いしたといえよう。

以上のことから、T児については早期指導の効果を十分推測できると思う。

#### 4. 今後の問題

T児は言語表出をするようになり、対人関係の持ち方もかなり改善されてきたとはいえ、同年令の子どもたちに比べれば、かなりことばは遅れているし、いろいろな物事に対する興味の持ち方も変わっている。現在5才になろうとしているT児に対し今後指導を続けるにあたっては、ことばの教室での指導とともに、集団の中での対人関係の持ち方の指導をどうするかということも十分考慮する必要があるだろう。そういった意味で、障害児の混合保育、統合教育に対する社会の理解と、教育施設の充実を願ってやまない。

#### ( 参考文献 )

1. 田口恒夫 編：「言語発達の臨床」 光生館 1974
2. 田口恒夫 著：「言語障害児の指導」 全国心身障害児福祉財団 1975
3. 玉井収介 著：「自閉の世界」 日本文化科学社 1976

#### 評

自閉的傾向には、さまざまな言語機能や視覚認知能力に特異な所見のあることがドメーサーやヘルメンなどの実験的研究によって確かめられている。この実践記録は、T児のち密な観察に基づいた指導記録であり、従来の心理療法的な情緒障害へのアプローチに偏ることなく、きめ細かな学習能力障害克服への努力を集中されている点で、今後の自閉症児の治療や教育の方向を示さすものとして高く評価したい。なお、早期に発見し母親の指導と平行して早期に治療教育を施すことがいかに大切であるかをこの研究が物語っているように思う。

今後も聴覚性および視覚性の刺激入力の受容機構、身体運動および言語運動による表現の機構・出力機構、思考および連合の統合の機構、言語の記憶および文章配列の自動機構など細かい検索がなされてその言語障害像が明確にされることを期待するものである。